

第36回 “学びをひろげるわたしと〇（まる）人の会”

～牧口一二さんを囲んで～

2021.9.25 於 城東区民センター大研修室

1. 誕生から小学校入学 (1937～1945)

※盧溝橋事件、日中戦争本格化、太平洋戦争、敗戦

盧溝橋事件(1937. 7) 南京大虐殺(1937. 12) 提灯行列・太平洋戦争(1941. 12) 真珠湾米英仏 vs 日独伊 日中戦争→太平洋戦争→第二次大戦、玉音放送(福井大野郡) 敗戦 1945. 8～9 ポツダム宣言受諾 福井から豊中(叔父の家)

大阪市内に戻って天王寺区餌差町のオヤジが勤めていた会社の独身寮の賄い。

その裏の焼け跡の原っぱのヤンマ捕り！

戦争孤児カッパライ(博愛社の小橋克枝)

2. 小学校・中学校・高校 学校の通った時代 (1945～1957)

※戦後民主主義教育、朝鮮戦争、対日平和条約

1946. 4に母はボクと妹(1940. 3生まれ)を連れて学校行くもテンヤワンヤで断られ、1947. 4に「おまたせしました」となる(おおらかに)。(1947. 4)1年生(9才)～1953. 4)中1(15才)～(1956. 4)高1(18才)～

体育の時間 道向かいに立派な50mプール 三角ベースのルールづくり

5頭身のこと 遠足は休日(最後の修学旅行だけは)

3. 大阪美術学校デザイン科、就職 (1958～1970)

※高度経済成長、核家族化、安保闘争、大学闘争

60年安保闘争時は高校生、安保賛成派は1割程度(スゴイなあ)

大学闘争の〇〇派は分らないまま

1959. 4美校1年→1961. 3美校卒(21才)～精神的孤立(25才まで)

まったく就職できず 美校時代の学友に拾われてデザイン会社設立に参加

恩師に借金(1,000,000円) 高度成長期で返せた。

だがボクには仕事の発注がない 松葉づえに色を塗る

仲間を追いつくのが大変 子どもに「ちょっと絵～描いて」がツライ。

4. 障害者運動との出会い (1970～2000)

※部落解放運動、解放教育運動、養護学校義務化、青い芝の会

～26才(1963年)から障害者運動に仲間入り→肉親による子殺し事件頻発

おそらく減刑嘆願運動の始まりは……むのたけじさん『たいまつ』の「美津子ちゅん」では？(1958年3月28日のたいまつ誌の呼びかけ)

障害のプラス面を考える『われら何を掴むか』1975年5月刊

京都・誰でも乗れる地下鉄をつくる会(1975年)

大阪・誰でも乗れる地下鉄をつくる会(1976年)

おおさか行動する障害者応援センター(1979年2月10日)

『そよ風のように街に出よう』発刊(1979年)

青い芝の「愛と正義を否定する」に感銘を受ける

障害者が地域で生きる意味(ちがうことはええこっちゃ!)

5. 障害者権利条約(2014批准)、障害者基本法(2011)、障害者差別解消法(2016施行)など、法制度の改革

1960年代までは障害者にとっての法律はなく、障害者対策・障害者更生だった。

中年・若い障害者は「医学モデルから社会モデルへ」つまり「環境」とか

「差別解消法」とか法制化に尽力してくれて格段の進歩。

「合理的配慮」という言葉は好きになれないけれど、ボクに適切な言葉はないが、

障害者の立場から不合理な良さを見つけようと必死だったのでね、つい。

6. むしろ支援学校、支援学級在籍者数は伸び続けている。日本の人口が減少傾向に入り、児童生徒数が減少していることを勘案すれば、おどろ置くべき伸び方。

7. まとめ